

(令和3年7月書面開催) 福島県環境審議会第2部会における猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画の改定に対する意見と対応

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
1	資料2-2	p1	福島の方々の環境のシンボルともいえる猪苗代湖の水質目標値を厳しく設定し、施策を講じることに賛成します。 今後の強化策に挙げている浄化槽の定期検査の徹底は、大変重要な視点と考えますので、規制強化策か支援策か、検討の上実施いただきたい。	浄化槽の定期検査の徹底について、浄化槽の適正な維持管理や家庭でできる生活排水対策の取組、窒素・磷除去型浄化槽への転換や下水道等への接続等について、広く流域住民に普及啓発するため、パンフレットの作成配布や講習会を実施してまいります。	崎田委員	水・大気環境課
2	資料2-2	p2	施策で魅力発信だけを独立させる意図が、文字からは伝わらない。	猪苗代湖の水環境の素晴らしさを皆様にお伝えすることが水環境保全の意識啓発につながり、そのことが、水環境保全にも繋がると考えられることから、施策の一つとして取り組むこととしました。	小野委員	水・大気環境課
3	資料2-3	p1	CODを達成可能な目標値に変更したことは評価できます。一方で、以前掲げていた「水質日本一」という目標は環境保護の呼びかけを行う際にわかりやすく非常に効果的だったと思います。この目標は今後どうなるのでしょうか？今回の目標値は通過点というお考えでしょうか？ また、源流域からの酸性成分の減少の要因と回復の見込みについて情報があればご提示願います。磐梯の地質の特性を理解し、本計画の長期的な立案に必要なデータでもあると思いますので、調査を継続していただきたいと思います。	目標値については、将来的な「水質日本一」を見据えた、新たな計画の期間における目標です。 なお、源流域からの酸性成分の減少の要因と回復の見込みについては知見が得られていないため、引き続き、調査を継続してまいります。	石庭委員	水・大気環境課
4	資料2-3	p1	猪苗代湖のCOD目標を1.0mg/Lとする意図とは別に、0.5mg/L→1.0mg/Lの改定は誤ったメッセージを発することにもなりかねず、発信方法を慎重に検討されたい。	猪苗代湖のCODが0.5mg/L→1.0mg/Lの改定の理由として、「以前と異なり、湖の中性化により湖内浄化作用の低下や植物プランクトンによる内部生産が増加していること。」「中性化した湖を人為的に酸性化することは技術的に困難であること。」「現状で取り得る対策を最大限講じた上での水質がCOD1.0mg/L程度であること。」等を丁寧に説明する等、情報発信の仕方について、検討してまいります。	小野委員	水・大気環境課

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
5	資料2-3	p2	水質目標値達成のための汚濁負荷量の削減の検討の中で、それぞれのCOD負荷量が示されていますが、現状の目標値であるCOD:0.5mg/Lを達成していた平成10年度以前の自然由来その他負荷量はどのように試算されていますか。	平成10年度以前の猪苗代湖に流入するCODの負荷量は、 ①自然由来 約6,800kgCOD/日 ②内部生産 約1,500kgCOD/日 ③人為由来 約1,700kgCOD/日 合計約10,000kgCOD/日と試算しております。 なお、既にお示ししたCOD負荷と水質が比例していない理由としては、平成10年度以前は水質のpHが酸性であったので、自然浄化作用が働くとともに、窒素やリンを栄養として光合成を行う植物プランクトンの内部生産が低く抑えられていたことによるものと考えられます。	河津委員	水・大気環境課
6	資料2-3	p4	ビーチクリーナーや水草刈船の稼働など、具体的施策が示されていると思います。また、CODの負荷量が数値で示されており分かりやすくなっています。 その上で資料2-3-p4では北岸と南岸で、CODの目標値が1.0→1.5mg/Lに変更し、湖心では従来通り1.0mg/Lになっています。年2回の全層循環があり、500mの高所ということで風成循環も活発な猪苗代湖で、周辺と異なっても湖心でCODが1.0mg/Lが達成目標として適切な理由を示してください。むしろ湖岸の汚染が湖心に影響してCODをあげていると思いますので、湖岸のCODを低下させることが重要ではないかと考えます。	湖心のCOD値に関しては、湖心の目標値を0.5mg/Lから1.0mg/Lにしていますが、それに伴い湖岸周辺を1.0mg/Lから1.5mg/Lとしました。 「湖岸のCODを低下させることが重要」との御意見は御指摘のとおりですので、湖内に生育する水生植物を可能な限り回収すること、高度処理浄化槽の設置や下水道への接続推進により人為的な汚濁負荷を低減させること等、可能な限りCODを低下させるよう、取組を継続してまいります。	渡邊委員	水・大気環境課
7	—	—	プラスチックごみは海域に限った問題ではないはずだが、猪苗代湖と裏磐梯湖沼の湖底を含めた調査結果などがあればご教示いただきたい。	プラスチックごみに関する猪苗代湖と裏磐梯湖沼の湖底を含めた調査については、これまで実施しておりませんが、国における全国的な調査結果などの状況を踏まえながら検討してまいります。	小野委員	水・大気環境課
8	—	—	調査研究として、水質悪化の原因の定量的評価や対策の有効性および将来予測のために、猪苗代湖に関して水収支、物質収支が評価できる数学的シミュレーションモデルの開発や活用を進められてはいかがでしょうか。	県において、猪苗代湖に関する水収支、物質収支が評価できる数学的シミュレーションモデルを構築しているところであり、それを活用してまいります。	武石委員	水・大気環境課
9	—	—	水草が固定した炭素量を評価するブルーカーボンという考え方があります。水草の繁茂と回収を炭素固定手法として認め、温室効果ガス対策を兼ねた事業として水草回収作業を位置づけ、ボランティアの人力に頼らず、機械化(水草回収船などの導入)を強化していただきたいと思っております。	当計画の中では、水質改善に向けた取組として、水生植物刈取船導入により水生植物の刈取量を増加させることとしています。	中野委員	水・大気環境課